第72回レオロジー討論会 2024/10/18

水系スラリーの粘弾性と粒子間ポテンシャルの関係

○ 辰巳 怜¹, 小池 修¹, 吉江 建一¹, 辻 佳子²

1(一社)プロダクト・イノベーション協会 ²東京大学 環境安全研究センター/大学院工学系研究科

ものづくりとレオロジー

2



レオロジー特性から評価したい

目的





粒子の運動方程式

$$m\dot{v}_i = -\zeta(v_i - V_i^{ex}) + F_i^P$$
流体抗力 粒子間力

•抗力係数: $\zeta = 3\pi\eta d$ 粒子直径: d 溶媒粘度: η

・振動剪断場 $V_i^{\text{ex}} = \dot{\gamma}(t) y_i e_x \quad \dot{\gamma}(t) = \gamma_0 \omega \cos \omega t$

・境界条件(剪断場に適合した周期境界)
x, z: Periodic, *y*: Lees–Edwards





粘弾性の評価



初期構造

Brown運動により形成(Langevin方程式)

- 粒子直径: *d* = 100 nm
- 粒子濃度:45 vol%







初期構造



(a) 0 mV $\omega \tau = 1.2$ 粘弾性の線形領域



 $\gamma_0 = 10^{-2}$ (線形領域)

線形粘弾性





構造の緩和時定数



緩和周波数の分布



緩和周波数: $\omega_k = \tau_k^{-1}$







まとめ



粘弾性挙動: 粒子間ポテンシャルと, それにより決定付けられる構造を反映 → 粘弾性制御のためのスラリー調製の知見へ

